

## 2019年度 上期決算説明会 主な質疑応答

・日時： 2019年11月7日(木) 10:00~11:30

・場所： 大和証券 スカイホール

・出席者：	代表取締役社長	最高経営責任者 CEO	清水 洋史
	取締役	最高財務責任者 CFO	松本 智樹
	取締役	Blommer Chocolate Company Chairman	酒井 幹夫
	取締役	不二製油(株)代表取締役社長	大森 達司
	上席執行役員	最高経営戦略責任者 CSO	丸橋 康浩

### <Blommer について>

#### Q: Blommer の下期のボトルネックである労働者不足や生産効率の改善の目途はいつ頃になるのか

A: 労働者不足による離職率の改善については、処遇改善や採用方法の変更などの施策効果が表れ始めており、また、生産効率面でも改善効果が出始めている。ただし、供給責任の兼ね合いから生産数量の減少の影響を保守的に来期の上期まで見ている。また、シュガーフリーへの強い需要や、競合他社の供給状況などから鑑みて、一時的な数量減少が今後の Blommer の販売に影響を残すことはないとしている。

#### Q: Blommer の成長計画の目線に変更はないか

A: 2023年に EBITDA で \$ 80mil という目線からの変更はない。設備投資や経費なども、より適正化を進めることで収益向上を図る。

#### Q: Blommer の知見や業界での立ち位置を生かしたグループシナジーの創出目途はいつごろ出てくるのか

A: Blommer の顧客網を活かしたグループ全体でのビジネスの連携が進みつつある。大手チョコレートメーカーがターゲットエリアとしてみている日本・中国・アジアでの供給体制にも当社グループに強みがあり、グループの連携体制も構築が進んでいる。中国では、Blommer の工場への OEM など具体的な動きが少しずつ出始めている。

#### Q: 不二製油の買収した企業に対するマネジメントに課題はないか。

A: 現地に根ざしたビジネスの理解やマーケティング力、また、グローバルガバナンスが課題であることは当初より課題認識しており、買収を通して改めて強く課題として認識し、同時に足元で急速に対応を進めている。  
また、日本事業のもつ生産計画ノウハウ等の効率経営は、自身で思っていた以上に優れたものであることが認識できた。スピード感をもって改善していく。

### <その他の事項について>

#### Q: ブラジル ハラルドの 1Q の販売数量の減少は、顧客との関係性悪化などの影響はあるのか

A: ハラルドの収益性低下の主要因はレアル安や競合との競争によるもの。販売数量は 1Q には減少したが、2Q には前年を上回るなど、生産体制は通常に戻っており、顧客との関係性の毀損はしていない。

#### Q: 植物性油脂事業の利益率について来期以降どのように考えたらいいのか

A: 主力のチョコレート用油脂は次期の契約が進んでおり、単価等の動向を考察すると、来期も堅調な推移を見込んでいる。

以上